

# キヌヒカリ熟期の高温登熟性品種の選定

～高品質米生産に向けて～

## 1. はじめに

近年、夏期の高温により、水稻栽培では玄米に白未熟粒（心白、乳白、基部未熟、背白、腹白）が多く発生し、玄米の品質が低下している。

高温年であった2012年の一等米比率は平均で14.5%と低く、特に「キヌヒカリ」では5.8%と著しく低かった。そこで、「キヌヒカリ」に代わる高温でも登熟の良い品種が現地でも強く求められている。当試験場では奨励品種決定調査において、有望な品種の選抜を行っているのので、その内容を紹介する。

## 2. 試験場内の結果

2013年、2014年にそれぞれ6品種を供試した。2013年はキヌヒカリ熟期品種の登熟期が高温多日照で推移したため、「キヌヒカリ」の玄米外観品質は劣ったが、高温登熟性品種の「越南243号」、「みずかがみ」は整粒率が高く、外観品質は優れた（図1、表1）。

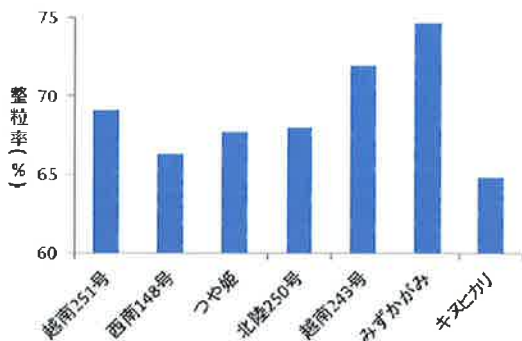


図1 キヌヒカリ熟期品種の玄米に占める整粒の割合  
注) 整粒率は穀粒判別器(静岡製機ES-1000)により測定。

2014年は曇天日が多く、低温寡日照で推移したため、全体的に白未熟粒の発生が少なく、品種間差は小さかったが、いずれの品種も「キヌヒカリ」より整粒率は高かった（データ省略）。

登熟期間が高温で推移した2013年に玄米外観品質の高かった「越南243号」、「みずかがみ」は、「キヌヒカリ」と比べ出穂期、成熟期はほぼ同等で、収量も同程度であった。玄米外観品質が高かった理由は心白粒が少ないことであり、品質が優れ、食味値も高かった（表1）。

## 3. 現地調査の結果

2014年に県北部～県南部の7ヶ所でキヌヒカリ熟期の高温登熟性品種の現地適応性を調査した。2014年は低温寡日照で推移し、雨天日が多かったため、いもち病、紋枯病など病害が「越南243号」で多発、「キヌヒカリ」でも発生した。そのため、「越南243号」は収量がやや少なくなったが、玄米外観品質は「キヌヒカリ」と同程度～やや良かった（データ省略）。

## 4. おわりに

今回の調査で「越南243号」、「みずかがみ」が有望と考えられた。「越南243号」は品質が優れるものの、現地調査の結果から、病害の発生に注意する必要があることがわかった。

今後も、育成地から新系統を取り寄せ、今回有望であった2品種を中心に調査を行い、和歌山県に適した高温登熟性品種の選抜を行っている。

(栽培部 宮井良介)

表1 キヌヒカリ熟期の高温登熟性品種の生育、収量

品種・系統名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	精玄米重 (kg/a)	玄米外観品質	心白	乳白	基部未熟	背白	腹白	食味値 (S-HON)
越南243号	8.11	9.17	58.3	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	80.1
みずかがみ	8.09	9.15	57.4	2.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	79.7
キヌヒカリ	8.11	9.17	59.6	6.0	3.0	0.5	0.5	0.5	0.0	75.1

注) 移植日は2013年6月18日。移植方法はペーパーポット手植え。植付け本数 3本/株。栽植密度は16株/m<sup>2</sup>(25cm×25cm)。

施肥量はセラコートR622(16-12-12)を窒素成分で8kg/10a施用。

出穂期は全莖数の5割が出穂した日。成熟期は中庸な穂の籾が9割黄化した日。

精玄米重は1.8mmで篩い選した水分15%換算値。

玄米外観品質は外観品質について1(上・上)～9(下・下)の9段階評価。心白、乳白、基部未熟、背白、腹白の発生程度は、0(無)～5(甚)の6段階

食味値は91.5%に搗精した白米を近赤外分析計(ニレコ社NIRS6500)にて測定。